

日本共産党

豊島区議団ニュース

発行所：日本共産党豊島区議団 東京都豊島区東池袋1-18-1 豊島区役所内 TEL.(3981)1429 FAX.(3590)4650

現庁舎地の活用及び周辺整備

114億円もの税金投入 白紙撤回を！

今後の整備イメージ

1,355席の新ホール
生活産業プラザ
新区役センター
458席のホール
アニメイト
サンシャイン60通り
新庁舎方面との連携
低層部は商業施設等を想定
WACCA
28年秋竣工予定
池袋公園
池袋東口駅前からのアクセス

※この資料は、検討段階におけるケーススタディーとしてのイメージであり、民間事業者からの提案募集の条件となるものではありません。

※この資料は、検討段階におけるケーススタディーの事例をイメージとして描いたものです。

(豊島区の資料より)

上：新ホール周辺のリニューアルイメージ
右：中池袋公園のリニューアルイメージ
下：周辺区道のリニューアルイメージ

豊島区は、10月に現庁舎地の活用及び周辺整備に関する費用の概算を示しました。

総額約114億円となります。その内訳は、公会堂の後の新ホールが5億円、区民センターの建て替えと産業プラザの改修に約44億円、さらに中池袋公園の改修や新庁舎と現庁舎地を結ぶ区道の整備に約20億円となっております。

なぜ、ばく大な税金投入か

豊島区は、10月に現庁舎地の活用及び周辺整備に関する費用の概算を示しました。

総額約114億円となります。その内訳は、公会堂の後の新ホールが5億円、区民センターの建て替えと産業プラザの改修に約44億円、さらに中池袋公園の改修や新庁舎と現庁舎地を結ぶ区道の整備に約20億円となっております。

区議団は、この資金計画に当初から反対してきました。区民に知らせないまま新たな区民負担を強い現庁舎地の活用及び周辺整備計画の白紙撤回を求めています。

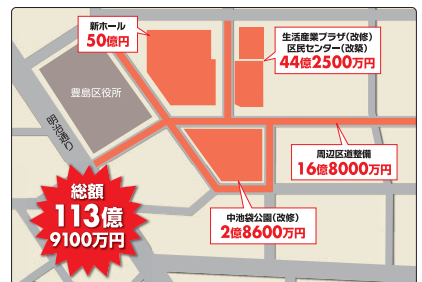
区長は「新庁舎のお金を生み出していくには現庁舎周辺の整備をやっていかないとダメ」といっています。

東西デッキ構想などさらなる大型開発も

区議団は、この資金計画に当初から反対してきました。区民に知らせないまま新たな区民負担を強い現庁舎地の活用及び周辺整備計画の白紙撤回を求めています。

区長は「新庁舎のお金を生み出していくには現庁舎周辺の整備をやっていかないとダメ」といっています。

区議団は、大型開発優先ではなく、保育、介護、医療、中小企業対策など区民生活優先の区政にするため、がんばります。



新ホール計画は区民に説明し、区民の真意を問え 陳情は継続審査に

豊島区が進めようとしているばく大な経費を投入する新ホール等の計画について、十分に区民に説明し、区民の意思を問うことを求めた陳情がだされ総務委員会では審査されました。

かきうち、小林両議員は、「総額114億円の税金投入は区財政を圧迫する、今回の計画が114億円で収まる保障はない、区民に説明がほとんどされていない」などを追及、陳情の採択を主張しました。理事者は、今後は周辺整備計画のスキームも含めてパブリックコメントも実施すると答弁しました。区長も、説明をすることは検討することでした。

自民、公明、自治みらいは「説明は必要だが難しい」「区民の意思を問う」というが問う方が不明」などと言って継続審査にしました。

13年第3回 定例区議会

大型開発優先の区政をただし 切実な区民の願いにこたえるために

2013年第3回定例会は、9月20日から10月25日の日程で開かれ、一般質問は森議員、小林議員がおこない、決算特別委員会には、かきうち、渡辺、森の3議員が委員として審査を行いました。

区議団は、現庁舎地の活用及び周辺整備や西部地域複合施設など大型施設には多額の税金投入をし、一方特養ホームや認可保育園、国民健康保険料の減免など区民にとって切実な要求には背を向ける区政を追及。また、議案提案権をつかって認証保育所等保育料補助拡充の条例案を提出するなど、積極的な提案を行いました。

森とおる議員が一般質問

9月24日、森議員は「現庁舎地・周辺整備は白紙撤回を」と題し一般質問を行いました。

50億円の劇場ホール等について

これまで17億円としていた新公会堂建設費は、新庁舎の資金計画に含まれており、区は「税金を使わない。借金しない」と言ってきました。ところが区は50億円(35億円は借金)の劇場ホールに変更し、その周辺整備にさらに多額の税金投入する計画を進めています。

森議員は、総投資額を



また、計画変更を庁内で決定する前に、区長が議会で発表したことは独断専行ではないかと追及したところ、区長は庁内での検討は済んでいたと開き直りました。さらに、いつ借金をする準備を進めていると計画に変更したのかと質問。また、劇場のニーズ調査や、採算の試算すら実施していないことも浮き彫りになりました。

大塚三業通り周辺の浸水対策について

8月と9月、南大塚において、ゲリラ豪雨で道路冠水、床上浸水など甚大な被害が発生しました。

また、東鴨小学校を避難所として開放しなかったことなどについて改善を求めたところ、区は今回の教訓を今後活かすと答弁しました。



小林ひろみ議員が一般質問

9月25日、小林議員は「区民の命と健康を守る区政に転換せよ」と題し一般質問を行いました。

まず、「大型開発」優先の区長の姿勢を批判。一方区民の生活はますます困難になり、介護や医療、雇用など複数の複雑な問題を抱えている、具体的な対策を取るつもりがあるかを質しました。

だれもが使える介護保険にするために

つぎに、介護保険につ



いて安倍政権が「要支援の人を介護保険から外す」「特養入所は要介護

3以上に」など改悪しようとしていることに反対を表明せよ、と求めました。区長は拒否、また、在のAランク187名は対応できる」と答弁。増設に背をむけました。

区民の命を守る国民健康保険にせよ

小林議員は、「国保料を高くしてはならない区民が増えている。国保料徴収最優先の取立はやめよ」と追及。さらに、「保険料減免制度を区長の判断で拡大する」と求めました。

保育園待機児解消について

小林議員は増え続ける

また、住宅リフォーム助成制度の創設を求めたところ、「現在ある制度との役割分担が必要」といい、拒否しました。



主な条例・請願・陳情・意見書について(四面も参照してください)

お金がないと言って 区民の願いにこたえず

「基金積立」をすすめる12年度決算に反対

豊島区は12年度の予算編成時「大幅な財源不足」としていました。ところが、決算では20億円の黒字となり、さらに11億円を財調基金に積み増ししたのです。これは、やるべきことをやらなかったとこじつけています。

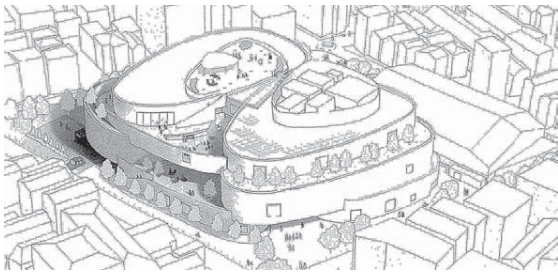
豊島区は12年度の予算編成時「大幅な財源不足」としていました。ところが、決算では20億円の黒字となり、さらに11億円を財調基金に積み増ししたのです。これは、やるべきことをやらなかったとこじつけています。

このような財政運営の下で、保育園の待機児童は、2013年現在290名(新定義と昨年の129名より大幅増です。ところが区は認可保育園の増設は拒否したまま、特別養護老人ホームは、2か所の建設が決定しているが「即入所を必要とする人(Aランク)」は180人を超え、足りません。しかし区は増設をしようとしません。防災でも救援センターは不足

豊島区は12年度の予算編成時「大幅な財源不足」としていました。ところが、決算では20億円の黒字となり、さらに11億円を財調基金に積み増ししたのです。これは、やるべきことをやらなかったとこじつけています。

16億円も上乗せ

西部地域複合施設の 補正予算



今議会で、西部複合施設の工事請負について、

これまで32億円の建設費を16億円も上乗せし、48億円とする債務負担行為の補正予算が提出されました。

これは、工事請負契約の入札に対し、応札する業者がなく不調に終わったためです。区は、予定通り建設をすすめるには、早く入札をやり直さないと、国庫補助も受けられないと、緊急に補正予算の議決を依頼しました。

今議会で、西部複合施設の工事請負について、これまで32億円の建設費を16億円も上乗せし、48億円とする債務負担行為の補正予算が提出されました。これは、工事請負契約の入札に対し、応札する業者がなく不調に終わったためです。区は、予定通り建設をすすめるには、早く入札をやり直さないと、国庫補助も受けられないと、緊急に補正予算の議決を依頼しました。

区民に巨大な負担を強いる大型開発計画を次々と具体化

一方、区は新庁舎建設の再開発計画にまい進し、さらに総額60億円の西部複合施設設計画や池袋駅の東西デッキ構想の具体化、また防災を口にした道路建設を都と

設を起爆剤として、周辺の再開発計画にまい進し、さらに総額60億円の西部複合施設設計画や池袋駅の東西デッキ構想の具体化、また防災を口にした道路建設を都と

進めるなど、今後、長期にわたり区民に巨大な負担を強いるものとなっています。

国保・後期高齢者医療・介護保険等に反対

国が8月から強行した生活保護基準の引き下げと、生活保護法改正案に反対する陳情が区民厚生委員会(河野委員長)で審査されました。

国が8月から強行した生活保護基準の引き下げと、生活保護法改正案に反対する陳情が区民厚生委員会(河野委員長)で審査されました。

生活保護法改正案は、厳しい申請書類提出や扶

「生活保護法改悪やめて」の陳情

自・公・民・み・社民・ネットらが不採択に



今回の基準引き下げは過去最大で、アベノミクスによる物価上昇と相まって受給者に深刻な打撃を与えており、受給者のみならず住民税非課税限度額や介護保険料、就学援助など他施策にも影響します。ところが他会派は「生活保護は福祉という声もある」などと発言するなど、受給者の実態から目をそらし、陳情を不採択にしてしまいました。

養義務強化を盛り込み、これまでも横行していた申請者を追い返す水際作戦を合法化するものです。森議員は「社会保障制度の根幹を崩し、生存権を無視した改悪であり、安倍政権の暴走だ」と国の手法を批判して、陳情採択を主張しました。

許せぬ！

消費税増税 中止を求め 陳情は不採択

今議会で「消費税増税白」と指摘。さらに豊島区民の置かれている厳しい家計状況も明らかに提出され、総務委員会でも、陳情の採択を主張しました。

展開、傍聴者から失笑を買いました。

かきうち、小林西議員は、審査を一貫してリード。「消費税を引き上げて消費するから逆に消費するから逆に押し付けたら、経済も景気も最悪になることは明

審査結果は、自民、公明は不採択の態度をとり、自治みらい(民主、社民、ネット)は、両陳情とも継続審査を主張し、否決されると退席してしまいました。



